



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 23 号

2024 年 12 月 26 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2024冬休みわくわく算数教室」3日目

12月26日（木）、わく算もいよいよ後半戦。3日目の今日も無事に終わることができました。この4日間の中で、今日が児童もSPさんも一番人数が多い日でした。雰囲気は賑やかでしたが、想像以上に子どもたちが落ち着いて勉強に取り組んでいたように思います。今年の冬のわく算も残り1日。みなさん自身も体調に気を付けながら、そして子どもたちとの関わり・反応を楽しみながら、活動に取り組んでもらえたらと思います。



こんなに楽しそうに勉強ができるなんて…
…。素敵ですね。これがわく算の力、そしてSPさんの力です。

今日の司会は、午前が
瀬瀬 SP、午後が川端 SP
でした。さすが4年生。
堂々とした司会でした。
2人とも、ナイスチャレ
ンジ！4月からの教員生
活に生きること間違いな
しでしょう。



今日は、土井シニア SP が駆けつけてくれました。2年前の卒業生です。「久しぶりのわく算はどう？」と聞くと、「なんだか学生同士の交流が盛んで、雰囲気がとっても良いですね。」と話してくれました。土井さんがSPとして活動していた時は、コロナウイルスの流行真っ只中の時でした。そんな大変な時にも、繋いでくれたSPさんがいるので、今があります。土井さんに担当してもらった児童は、ノリノリで勉強していました。やはり現場の先生は一味違いますね。

5年生の『割合』の単元でつまづいている子ども、その子どもたちにどう指導していこうか悩むS Pさんの姿をよく見ます。『割合』、S Pさんの中でも難しいと思う人も多いのではないのでしょうか。かくいう私も、算数・数学は大の苦手で、今でも根強く苦手意識を持っていますし、私が算数を嫌いになったのもまさにこの5年生の『割合』がきっかけでした。

そもそも、『割合』って何でしょうか？

結構困りますよね。大人でもなかなか答えるのが難しい問いだと思います。ぜひ、この機会に考えてみてください。そして、S Pさん同士で話し合ってみてください。

また、わく算では希望者に事前に教科書を郵送しています。教科書も有効に使ってもらえたらと思います。教師を目指すみなさんは、きっとたくさん勉強して、努力してこられた人ばかりだと思います。だから、数をこなしていく中で「なんとなく」とか「感覚で」できてしまう人も多いように思います。ただ、「なんとなく」や「感覚で」だけでは通用しません。『割合』の単元にしても、それまでに培ってきた知識を元にして子どもたちは考えていきます。だから、子どもたちが「何ができるのか」「何が分かっているのか」「何につまづいているのか」まず、そこが分からないと先に進むことはできません。だからこそ、事前に担当する学年の子どもたちが教科書で何をどのように学んできたのかを知っておく必要があると思います。偉そうなことを書きましたが、自分が学生時代、そんなことは全く考えていませんでした！お恥ずかしい！

でも、きっとこの

- ◆ 教科書を有効に使う（利用する）こと
- ◆ 「何が分からないか」「何が分かっているか」を確認してから学習を進めていくこと
- ◆ 子どもと対話しながら確認していくこと

は、どの教科にも通ずるものがあるのではないかと考えています。

わく算のたった90分で、『割合』のような“概念”を完璧に理解させようと思うと、それはとても難しいことだと思います。ただ、“考えるきっかけ”をつくることはS Pさんにもできると思います。むしろ、S Pさんだからこそ、子どもたちの気持ちに寄り添いながらできることかもしれません。わく算の一番の目標は、「90分を楽しいと思えるようにすること。そして、算数を楽しいと思えるようにすること。」です。問題の解き方を教える方が簡単で、子どもたちも目先の問題が解けたら嬉しいかもしれませんが、果たしてそれで「算数が楽しい」と思えるようになるのでしょうか……。「目の前の子どもたちが本当の意味で算数を学ぶ楽しさを味わえるように」と考えてチャレンジしてみてください。きっとこの経験がS Pさんにとって、とても大きな学びになるでしょう。子どもたちに真剣に寄り添ってくれるS Pさんだからこそできることだと思います。S P活動を通してたくさん学んでいってください！！